

長谷村エコツアーの報告

～伝統文化の知恵を生かそう 持続可能な循環社会をめざして～

11月2日（土）3日（日）、長野県上伊那郡長谷村にてエコツアーを開催した。ミニ・シンポジウム、中尾歌舞伎鑑賞、秋野菜の収穫・調理体験には、地元の方を含め約60名が参加した。参加者による報告と感想を紹介する。

<エコツアー報告>

五感で感じた長谷村エコツアー体験

湯川 隆

当日は、前日から寒気が来るとの天気予報があり、防寒着を準備して、中央線の茅野駅に向かった。駅からは迎いのマイクロバスに約1時間乗って、南アルプス山麓の長谷村へ一気に山を登った。中尾座でバスを降りた。小さいが本格的な造りだ。皆が車座になり、ミニ・シンポジウム「伝統文化の知恵を生かそう」が始まった。パネラーは地元の農村生活マイスターの中山都美子さん、店主の岡部和秀さん、住職の松井教一さん、環境情報科学センターの伊藤寿子さんと加藤三郎代表、藤村コノエ専務理事の6名。メンバーの顔ぶれがユニークであるのと、話の中に最新話題の「地産地消」「学校給食野菜」「都会人に土地貸し出しキャンペーン」「山村留学」といった用語がポンポンと飛び出す新鮮さに驚かされた。そのなかでも、野菜を流通に乗せて大量出荷するために農薬が使われていること、また、効率を優先して形の良いものだけを選別して箱詰めして出荷しているなどの事例が印象に残った。それは消費する、我々都会人側に問題があるとの厳しい指摘であった。ここに、大量生産、大量消費の文化が今も残っている現実を知った。もっと、自然の香り、低農薬野菜を自然に近い形で都会人が食せるシステムが必要と感じた。

続いて、中尾歌舞伎を鑑賞した。出演者全員が長谷村の中尾歌舞伎保存会の皆さんだ。歴史を感じさせる伝統文化の香りと演技者の素朴さが印象的であった。中村徳彦さんをはじめ歌舞伎の役者さんに夕方の懇親会にも参加していただき、村の文化と行政などの歴史や人物紹介により、村の問題点や歴史文化に触れることが出来た。



ミニ・シンポジウム

翌日は野良仕事が出来格好をして、山頂にある宮下正人さんの農場まで徒歩で登った。低農薬で豊かな自然環境で育ったダイコン、キャベツ、野沢菜、春菊、小松菜、白菜を欲しい分だけ掘り起こした。なかでも、取りたてのダイコンを丸かじりして、サクサクとした梨のような感触を味わうという体験が出来たのは本当に良かった。その後、長谷村食文化研究会の皆さんのご指導で「まめどうふ」「しそ巻き」をみんなで作った。それを地元の人と参加者が一同に会して食し、秋野菜料理を腹いっぱい堪能した。各人が感想を述べ、楽しく地元の人と意見交換した。村に伝統として生き続ける食文化には持続可能な社会へのヒントが隠されている。この二日間、五感で自然を満喫・堪能した。来年も是非、参加したい楽しいツアーであった。

<参加者の感想>

晩秋の長谷村

山辺 妙子

頬を撫でる風の心地よさ。昨年に続き、二度目の長谷村は、紅葉の素晴らしい晩秋であった。奇しくも今年の春、社会人となった息子の24歳の誕生日。

恒例のシンポジウムは「伝統文化の知恵を生か

そう」であった。ゲストのお話によると、長谷村では無農薬・低農薬の野菜を学校給食に取り入れているとのこと。同じ仕事に携わっている私としては羨ましい限り。…でも、次に頭を巡ったのは、曲がったキュウリや泥の付いた大根を使って、手切りで1,200食近くのサラダ、中華和えetc.を作る…「こりゃーダメだ！時間がかかりすぎる！」であった。大量に給食を作らなければならない歯がゆさである。それに、そんな食材が手に入るかどうか不安の種。現代社会における大量供給のツケがこんなところにもあるのだ、と考えさせられてしまった。

お次は歌舞伎。長谷村に歌舞伎とは驚きである。主題は「人情」。そう、心の動きだ。どの時代においても、ヒトは、心で動きたいと願っている。だから、この「心」のテーマは、色あせることなく語り継がれるのだと思う。文化とは、ヒトの心が奏でる共鳴のようなもの。公演前に説明のあった「五感で感じて欲しい！」の意味が解った気がする。

この日の最後は懇親会。自己紹介の後に思わぬプレゼントが待っていた。11月3日は私達の28回目の結婚記念日。藤村さん始め、スタッフの皆さんがケーキを用意して、お祝いして下さった。少し恥ずかしく、すごーく嬉しい！何処へでも誘ってくれ、いつでも自然体の夫に感謝である。

2日目、宮下さんの畑で収穫体験。どれもこれも柔らかくてみずみずしく、大地に宿る宝石のように、誇らしげに輝いて見えた。「数日間はおいしい野菜が楽しめる」と彼等が息のつける新聞紙に包み込んで、新鮮さを持ち帰った。

お昼の郷土料理に舌鼓を打ち、心と体のリフレッシュ・エコツアーは帰路へと向かう。辿り着いた我が家には、82歳の母の手作りコロッケが…。



中尾歌舞伎 (写真提供：丸山幸弘さん)

<参加者のアンケートより>

●ミニ・シンポジウム

- ・伊藤さんの、ダイヤモンドのようなお米を作って食べる生活、今の世の中では最高の贅沢。豊かさとは何かを身をもって私たちにを見せてくれた。
- ・地方にも私達を刺激する意見があり、大変勉強になった。地元の参加者が少なかったのは残念。

●歌舞伎鑑賞

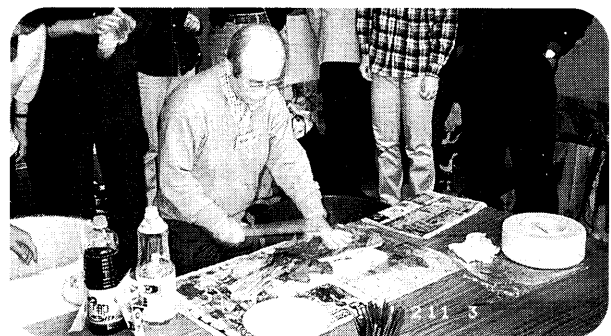
- ・言葉がわかりやすく、またハッピーエンドでよかった。舞台と観る人が近くていい雰囲気でした。
- ・予期以上に面白い、楽しい時間でした。現代の都市生活者が高い代価を払って享受する楽しみを、長谷村の方たちは、自分たちの手で創り運営しているのは本当に豊かな文化的な生活だと思う。

●秋野菜の収穫&調理体験

- ・宮下さんが畑で説明してくれたことがすごく印象的だった。「野菜を虫から守ろうとカバーをかけると、日の当たる量も減り、植物が弱くなり、かえって虫にやられる。たくさん日に当てどんどん成長させると植物も強くなって虫に負けないようになる」。現代の人間も同じだと思った。
- ・収穫も調理も遠い昔の体験を思い出し、新鮮な感動を覚えた。収穫は簡単そうでいて、ダイコンなどを途中で折らないで抜くのは難しかった。大人になっても、体験はやるものだった。
- ・キノコを含む山菜取りが出来なかったのは期待外れ（時期的に無理だったか）。天候に恵まれたのがラッキー。野沢菜漬けの体験は有意義。

●全体の感想

- ・環境問題は常に意識すべきことだと思っているが、あまり前面に出すよりも、さりげなく意識するほうが却って有効なのかな、と考えさせられた。“生きる”という言葉が連呼されていたが、環境問題も生きるため、代々存続していくためにこそ必要なことだろう。



おいしい野菜漬けになれ